

1 ウヤク

2 生薬の性状の項を次のように改める.

3 生薬の性状 本品は紡錘形又はところどころくびれた連珠状を
4 呈し、長さ10～15 cm、径1～2.5 cmである。通例皮部が
5 剥離しており、外面は淡黄褐色～褐色を呈し、僅かに細根の
6 跡がある。横切面の皮部は褐色、木部は淡黄褐色を呈し、褐
7 色の同心性の輪及び放射状の線がある。質は緻密で堅い。
8 本品は樟脳様のおいがあり、味は苦い。
9 本品の横切片を鏡検〈5.01〉するとき、二次皮層が残存す
10 るものでは、最外層は数細胞層のコルク層で、コルク細胞
11 の一部はコルク石細胞である。二次皮層には油細胞及び繊
12 維を認めることがある。二次皮層が剥離したものでは、最
13 外層は形成層又は二次木部である。木部は道管及び木部繊
14 維と、放射組織が交互に配列する。二次皮層及び木部の柔
15 細胞中に単粒及び2～4個の複粒のでんぷん粒を含み、単粒
16 の径は1～15 μmである。また、シュウ酸カルシウムの結
17 晶は認めないか、又は認めることがあっても、極めて僅か
18 である。

19

20

21